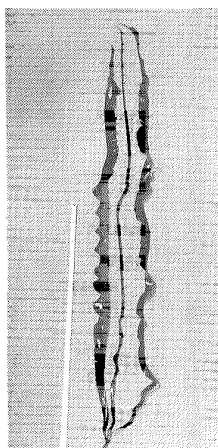


珍しい形のコンブ

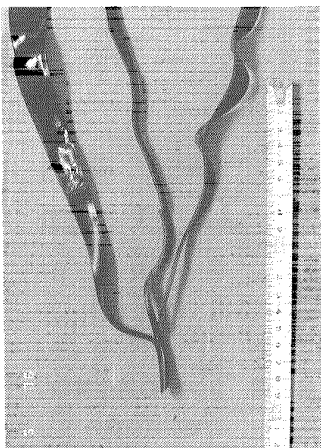
名畑進一

浜を歩いていると葉が螺旋状にねじれた奇形のコンブを良く見かけます。コンブ類の奇形については色々な形のものが報告されていますが、ナガコンブについては報告がないようです。今回はナガコンブの二つの奇形をご紹介します。

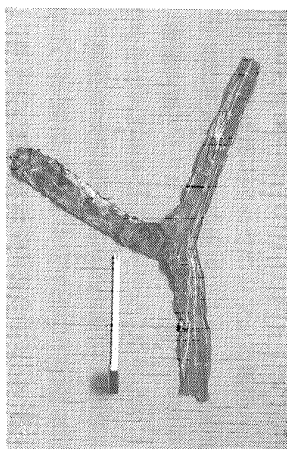
写真一は釧路町昆布森で採った葉が三枚もあるナガコンブです。右端の葉が最も長く二五一cm、幅は四・二cmありました。茎の部分をよく見ると(写真二)、茎が途中から二又状に完全に分岐して双頭の葉体が形成された後、右の葉が茎まで裂けて中央の細い葉を生じたようです。中央の葉の右辺と右端の葉の左辺の組織はまだ修復していませんでした。双頭コンブの例は長谷川・福原と川嶋が、三頭コンブの例は坂野が報告しており、いずれも葉体は一m以下で小型のものです。昆布森の三頭コンブのように奇形でかつ大型のものは珍しいと思います。なおこのコンブは角のある石が多い投石礁に着生していたもので、発生、成長の途中の物理的作用が原因で奇形となったものと考えられます。



写真一 昆布森産のナガコンブ

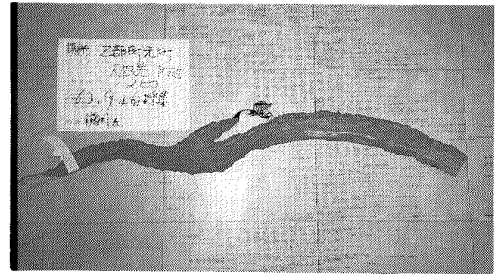


写真二 写真一の下部



写真三 桂恋産のナガコンブ

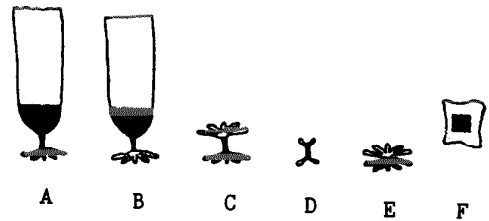
写真三は釧路市桂恋で釧路市東部漁協の板垣勇氏が採ったナガコンブです。選葉の際に気がついたということで、残念ながら全長約一〇〇cmで、一部分だけです。左側のコンブの先端部には茎・根が全く認められませんのでおそらくY字型の下部に茎・根があって着生していたものと考えられます。また右側と下部の葉の中央部は隆起していて二重の奇形コンブでした。これに似た例で、坂野と川端は二葉状体为何かの原因で癒合したものと考えられるという、マコンブの奇形を報告しています。写真四はそれと全く同様で、乙部町で乙部漁協の増川氏が採った全長約一〇〇cmのホソメコンブの奇形です。ところが写真三の場合には左側のコンブに茎と根がなく、完全な二個体が上部で癒合したとは考えにくい点があります。コンブの葉体が発生・成長の途中で本当に癒合するものか、今後の奇形の研



写真四 乙部産のホソメコンブ

究や形体形成の研究成果を待たなくてはなりません。

コンブの形体形成について嵯峨、阪井の興味ある室内での実験結果をご紹介します。(第一図)。コンブは葉・茎・根の三部分から構成されていますが、根は陸上植物のように栄養分を吸収する役割を持っていませんので、根は正しくは付着器と呼びます。ところで再生力のある小さなマコンブ(約3cm)を葉・茎・根の各部分で切り分けると、①成長帯を含む葉は成長するが、茎や根を再生しない(A・B・F)。②茎は根を再生するが葉を再生しない(C・D)。③根は同じ根のみを再生する(E)という結果が得られています。すなわ



第一図 コンブの再生実験

白地が再生部分

ちコンブの再生の場合には、葉の下部と茎の一部が残っていないと完全な再生がみられないということです。

珍しいコンブや実験例をご紹介しましたが、これを機会に浜でコンブを見る目を少しでも変えていただければ幸いです。また現在が主として「採る一方のコンブ漁業」ですが、「雑藻駆除を行って、育てて採るコンブ漁業」へと視点を変える時期でもあることを付け加えておきたいと思えます。

最後になりましたが、奇形コンブを採集していただいた各氏、写真三のコンブを届けていただいた釧路市東部漁協の井出直之総務部長、写真四を送っていただいた石狩地区水産技術普及指導所の今井久益主任に心からお礼申し上げます。

参考文献

- (一) 長谷川由雄・福原英司(一九五六) 北海道および青森県にみられたコンブの奇形について 北水試月報 一三(二)・一九一・二〇
- (二) 川嶋昭二(一九八七) コンブ類の奇形 遺伝 四一(九)・三六・四〇
- (三) 坂野紀子(一九六三) 道南近海にみられた奇形コンブについて 生物教材の開拓 三・一二九・一四七
- (四) 川端清策(一九五九) 北海道渡島国北海道学芸大学生物教育尻岸内臨海実験所附近海藻目録(第一報) 北海道学芸大学紀要(第二部) 十(二)・二八五・二九六
- (五) 嵯峨直恒・阪井與志雄(一九七七) コンブ目植物の形態形成、I、マコンブ造胞体切片の再生 藻類 二五(増補)・二九七・三〇一

(なばた しんいち 増殖部)